



IPtalk を利用したチャット形式による情報保障

グループ討議の情報保障

- ◆聴覚障害者と健聴者がグループ討議を行うには手話や要訳筆記が必要であった。
- ◆今回ノートPCにIPtalkと無線LANを導入してチャット形式の情報保障を実施。



健聴者のみ



健聴者+障害者の場合

IPtalkの表示画面



- ◆ IPtalkの「メインモニター」討議参加者のコメントを全て履歴として表示
- ◆ IPtalkは全員が入力中の文章をリアルタイムで確認
- ◆ IPtalkでは、単語や文章を登録することができる

グループメンバーの名前を登録

IPtalk : <http://iptalk.hp.infoseek.co.jp/>

チャット形式のグループ討議の様子



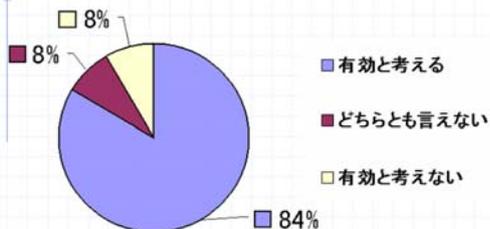
チャット形式と口頭形式の比較

グループ討議の内容

形式	時間	ルール	議題	人数
チャット	10分	司会者が発言権を与える/ 自由に発言	地球温暖化対策	5人
口頭	10分	司会者が発言権を与える	就職活動	5人

- ◆ 参加者:5人(健聴者4名+聴障害者1名)

チャット形式による 情報保障の有効性について



8割の人が有効な手段と回答

まとめ

- ◆チャット形式と通常の口頭形式の比較を行った。その結果、チャット形式ではログが記録されるため、発言者の内容が理解しやすい。
- ◆チャット形式では、文字が画面表示されるため相手の意見を確認してから発言できる。
- ◆声が小さい人でも、自由に文字で発言できる。
- ◆言葉のニュアンスや細かい感情の伝え方が課題

本研究の一部は、平成19年度科研費補助金（基盤研究（C）19500819）に基づき実施した、

問い合わせ先

日本工業大学 工学部 情報工学科 磯野春雄
MAIL : isono@nit.ac.jp